



国際ロータリー第2660地区
ガバナー

大谷 透



いよいよ本年度の最後の月となりました。

6月は親睦活動月間 (Fellowships Month) です。ロータリーの中核をなす価値観の一つである友情 (交友関係) を大切にすべく定められた月間です。

ロータリーの綱領にある第一項の日本語訳は「知り合いを広めよう」ですが、英文では“development of acquaintance”とあります。これは単に知り合いを広めることだけではなく、交友関係を発展させる事、即ち友情を深めよという意味も含まれているのです。personalな交友関係は人生の宝です。

「Fellowships Month」が年度末の6月に当てられた理由を考えてみました。

我々はクラブで奉仕活動を行い、達成感を持って気分良く終了できた場合、会員相互の人間関係は明らかによくなります。しかし、もし奉仕作業の過程で意見の不一致から会員間に感情の縄れが生じたり、一部の会員の仕事が十分評価されずに不満が生じたならば、たとえその奉仕活動がどんなに愛に満ち、賞賛や感謝を受けたものであっても、ロータリーの評価基準からいうと成功とはいえません。ロータリーの特別な集会で、いつも「手に手つないで」を歌って終わるのも、最後に仲よく友情を大切にしようとの思いからです。

クラブ内に親友をつくるためのツールに趣味の会があります。各クラブに夫々、野球、ゴルフ、囲碁、麻雀、コーラス等の同好会があり、中には地区レベル、全国レベルで交わりを深めているも

のもあります。

このような親睦をとりもつ会のお世話は立派な奉仕の業ですからクラブ奉仕といえます。恵まれない人々を助けるという要素が入らないために奉仕という言葉を使うのに抵抗を感じる人がいるかもしれませんが、交友の絆を強めるための労力は立派な奉仕です。同好会の交わりからその中に人格的な交友関係 (親友) が育まれる事をロータリーは期待しているのです。

私の後輩に当たる医師がバングラデシュの農村で3年間の医療奉仕を終え、帰国後報告会を行いました。感動的な話もありましたが、挫折感を味わった話もありました。話した後、先輩ワーカーから厳しい質問がありました。弱い貧しい人の友になろうとすることは大変良いことです。しかし、この3年間に、あなたが苦しくてつぶれそうになった時、助けを求めたくなるような現地人の友人ができましたか。

我々の社会奉仕に於いてもこの目線は必要ですし、クラブ・ライフに於いても同様です。「Fellowship through service」はRACの標語ですが、ロータリーは100年以上にわたり奉仕を通して友情を育んできました。この成果を大切にこそ「ロータリーの未来はあなたの手の中に」という信念を共有できるのです。